



Title	WHOニュース 5月/6月
Author(s)	
Citation	目で見るWHO. 2024, 90, p. 20-23
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/99624
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

5月

May

Covid-19 入院患者における抗生物質の過剰使用を報告

COVID-19 パンデミックの際に抗生物質が過剰に使用され、薬剤耐性の蔓延が悪化させた可能性。

WHO と国際金融公社が、医療用医薬品などの現地製造に向けたパートナーシップを締結

健康製品の現地製造と将来のパンデミックへの備えに関するアジェンダを前進させるための新たな試み。

髄膜炎撲滅に向けたハイレベル会合

WHO の全加盟国がそれぞれに髄膜炎計画策定を支援することを決定。

非感染性疾患の予防と制御のためのベストバイ (第2版)

第2版となる本書は、NCDs に対処するための best buys やその他の推奨される介入策の最新リストを提供。

結核と併存疾患、統合ガイドライン

『モジュール 6 : 結核と併存疾患』は、結核に関するガイドラインを統合し、結核と主な併存疾患に関する最新の WHO 勧告を要約したもの。

食中毒のサーベイランス強化に

に向けた国際協力、初会合開催

食品安全アライアンスの設立総会を開催。各国が 2030 年までに目標を達成できるよう、10 年間の作業計画案を策定。

顧みられない熱帯病に関する世界報告書 2024

「顧みられない熱帯病 (NTDs) のためのロードマップ 2021-2030」で設定された目標に向けた進捗状況を報告するレポートの第2弾。

“UHC 2030” : 2024-2027 戦略的枠組み

UHC 2030 は、WHO、世界銀行、経済協力開発機構が共同でホストする形で設立されたが、進捗は当初想定した軌道から外れている。この新しい3つの道筋からなる戦略的枠組みによりこれからの UHC を推進する。

COVID-19 と学齢期の子どもの肥満増加との直接的な関連を強調

この報告書では、コロナパンデミックと子供の肥満率増加との関連性を裏付けている。

WHO 2023 年次報告書

報告書は公衆衛生の主要なマイルストーンが達成されたことを紹介しているが、健康アウトカムにおける著しい格差、COVID-19 パンデミックによる混乱、持

続的医療従事者不足も示している。

パンデミックへの備えと対応を強化するため、学問分野と政策執行当局との連携強化ガイダンス

課題に取り組む上で統合数理モデリングなどが果たす役割が明らかにされ、疫学的要因、マクロ経済的要因、行動学的要因を共有の分析フレームワークの中で組み合わせることで、パンデミック対策に役立つとしている。

カテーテル使用による血流感染症の減少を目指す新しいガイダンス

初の世界的なガイドラインには、医療従事者の教育と訓練、無菌操作と手指衛生の実践、カテーテルの選択・挿入・抜去など医療従事者のための14の実践と23の勧告を含む。

高齢者の長期ケア : ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) のためのパッケージ

本書は、各国がその状況に応じて検討し、優先順位をつけ、提供し、保健・社会ケア部門に統合することのできる LTC 介入策のリストが示され、必要不可欠な LTC の介入を予見し主流化するためのガイダンスを提供。

WHO、新デング熱ワクチンを事前認証

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう 標題及び冒頭部分を仮訳しているものです。詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



サノフィ CYD-TDV ワクチンに続き、武田薬品が開発した TAK-003 が WHO の事前認証を取得。

ワンヘルス分野の疫学人材育成のためのガイダンス

FAO、WHO、WOAH は、global health security を強化するため、COHFE フレームワークとガイダンスを発表。

アルボウイルス対策

世界アルボウイルス計画文書では、そのリスクのある地域において、ベクターコントロール（媒介害虫駆除）の強化やパンデミックの予防と準備をはじめとする6つの柱からなる統合的なアプローチを概説。

WHO との関わりに関する非国家主体向けハンドブック – 第2版

このハンドブックは、世界保健機関 WHO に関与する非国家主体が、WHO との円滑な相互作用を確保するために、非国家主体との関与の枠組み (FENSA) の原則とプロセスを通じて説明する。

薬剤耐性菌のリストを更新

「細菌優先病原体リスト」を更新し優先順位を決定。新しい抗生物質の研究開発の指針となる。

プライマリー・ヘルスケア・アプローチの実施：入門書

プライマリーヘルスケア (PHC) の「方

法」について、入手可能な最良の研究エビデンスとともにまとめたもの。

難民と移民の健康に関する 第3回 世界協議（報告書）

「難民と移民の健康に関する 第3回世界協議」の主な成果と行動項目をまとめた包括的な報告書が発表された。

顧みられない熱帯病に関する世界報告書 2024：要旨

2021–2030 年の顧みられない熱帯病に関するロードマップで設定された 2030 年目標に向けた進捗状況を報告する世界報告書シリーズの第2弾。

性感染症の大幅な増加が明らかに

報告書によると、世界的な HIV、ウイルス性肝炎、性感染症 (STI) の流行は、毎年 250 万人の死亡を引き起こし、公衆衛生上重大な課題をもたらしている。

WHO 指定医薬品規制機関の数が過去最多に

WHO は、医薬品とワクチンの品質、安全性、有効性に関する最高レベルの規制基準と慣行を満たすために信頼できる WLAs に、加盟 34 か国の 36 規制当局を指定。

顧みられない熱帯病とマラリアに与える気候変動の影響とエビデンスの必要性 [レビュー]

WHO の「気候変動と NTDs およびマラ

リアに関するタスクチーム」は、大規模なスコーピング・レビューの結果として、人為的な気候パターンの変化がマラリアや NTDs に与える実際の影響や潜在的な影響に十分な理解が得られていないことが明らかにした。

世界の行動科学：「公衆衛生」

世界銀行は、行動科学を公共政策に適用するための選ばれた国と国際機関の取り組みを紹介する報告書を発行してきたが、第3弾としての本書は、「公衆衛生の分野に適用される行動科学」について考察。

子どもの生存に向けた新たなマイルストーン：最新のマラリア ワクチン R21 を中央アフリカ共和国に出荷

ユニセフは Gavi ワクチンアライアンスの資金を得て R21/Matrix-M マラリア・ワクチンを提供。マラリアの予防と子どもたちの命を救うための新たなマイルストーンとなった。今後 RTS,S ワクチンとともに十分なマラリアワクチンの供給が可能になる。

Covid-19 により、10 年にわたる世界レベルの平均寿命の進歩が台無しに (世界保健統計 2024)

2019 年から 2021 年にかけて、世界の平均余命は 1.8 年減少して 71.4 年に、健康寿命も 1.5 年低下して 61.9 年となった。

5月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。 <https://japan-who.or.jp/factsheets/>

・ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) (全訳)、
・不妊、HIV 薬剤耐性、
・性感染症 (STI)、
・梅毒、
・中絶、
・風疹、
・喘息、
・看護と助産、
・敗血症、
・妊娠婦死亡率、
・健康とウエルビーイングのためのセルフケア、
・デング熱及び重症デング熱

6月

June

世界保健総会；第 14 次総合事業計画 (GPW14) を承認

今後 4 年間 (2025 ~ 2028) の主な重点分野を反映した 6 つの戦略目標を掲げた『第 14 次 総合事業計画 GPW 14』を承認。

世界保健総会；「国家の保健計画と実施への社会参加に関する決議」に合意

この決議は、世界が健康の不平等と保健システムに対する信頼の低下に取り組むことであり、極めて重要なもの。

世界保健総会 (5 月 29 日)；移植に関する新協定など、4 件を承認

「ヒト細胞、組織、臓器の移植利用の可能性、倫理的アクセス、監視の拡大」に関する新たな決議を承認。

世界保健総会 (5 月 31 日)；健康と気候変動に関する画期的な決議など、5 件以上を採択

「気候変動がグローバルヘルスに対する差し迫った脅威であることを認識し、気候変動がもたらす深刻な健康リスクに立ち向かうための断固とした対策の緊急の必要性」を強調する決議を採択。

世界保健総会 (6 月 1 日)：国際

保健規則 (IHR) (2005) の改正案合意、パンデミック協定の交渉延長など、数件を採択

国際保健規則 (IHR) (2005 年) の重要な改正案に合意し、遅くとも 1 年以内にグローバル・パンデミック協定の交渉を完了させることを具体的に約束。

IHR の改正内容は以下の通り。パンデミック緊急事態の定義を導入し効果的な国際協力を誘発。医薬品へのアクセスと資金調達へのコミットメント。改正規則の効果的な実施を促進するための締約国委員会の設置。各国内での IHR 部局の設立。

口腔保健に関するグローバル戦略と行動計画 2023-2030

この文書には、WHO の世界的な口腔保健アジェンダを定義する一連の政策文書が含まれ、加盟国がグローバルな口腔保健政策を各国の状況に適應させる行動計画を支援する実用的なツール。

思春期の健康に関する報告書 (第 2 版)

「18 億人の若者が世界を変えるキャンペーン」に基づく 第 2 弾 の報告書を発表。

デング熱；ダッシュボードを公開

WHO は、世界的なサーベイランスを強化し時系列的な傾向と疾病発生率を監視

するため、デング熱サーベイランス・システム・新ダッシュボードを公開。

ワンヘルス運用ガイダンス

2022 年、国連環境計画が One Health 同盟に加盟し四部会構成組織となった「ワンヘルスハイレベル専門家パネル」は、OH を『ヒト、動物、生態系の健康の持続的なバランスと最適化を目指す統合的で統一的なアプローチ』と定義。地域および国レベルでの多部門 OH アプローチの運用化と強化ガイダンスを主導。

都市の健康のためのパートナーシップと参加：政策概要

国や地方自治体が、都市の健康のためにパートナーシップと参加を強化する方法について考察し指針を示す際に役立つと思われるリソースを WHO 都市保健リポジトリに掲載。

公衆衛生、イノベーション、知的財産に関する世界戦略と行動計画の実施：2022 年世界調査報告書

「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」は、感染性疾患および非感染性疾患に対する必須医薬品とワクチンの研究開発、および安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスの必要性を認識。

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものです。詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



鳥インフルエンザ「H5N2 型」でヒトへの感染を初めて確認

メキシコで、鳥インフルエンザウイルスの「H5N2 型」にヒトが感染した事例が世界で初めて確認。

WHO はこのウイルスが一般住民にもたらす現在のリスクは低いと評価。

青少年の健康測定のための推奨グローバルアクション健康指標

この文書は、青少年の健康データの統一的な収集、編集、報告、利用のための対話型ガイドで「思春期の健康の測定」のために GAMA が推奨する 47 の指標のリストを示し、6 つのドメインにまたがって、選択の根拠と測定の詳細を示している。

グローバルな公衆衛生機能のために必要な基本的能力強化とその成果

この枠組みは、公衆衛生の必須機能を提供するために必要な人材を育成・維持するために、教育を雇用や公衆衛生のニーズと整合させるためのガイダンス、およびコンピテンシーと教育成果の参考セットを提供するもの。

WHO、抗菌薬の開発状況に関する報告書を発表

世界で臨床開発中および前臨床開発中の抗生物質を含む抗菌薬に関する最新報告書を発表。抗菌薬パイプライン全体に

わたってギャップが存在。

救命のためのヒト狂犬病ワクチン: Gavi、50 カ国以上でアクセスを強化

Gavi ワクチンアライアンスは、定期予防接種の一環としてヒト狂犬病ワクチンの支援を発表。2030 年までに犬を媒介とするヒトの狂犬病を撲滅することを目指。

WHO、不健康な食品への課税に関する初のガイドライン

加盟国が健康的な食生活を促進するためのガイドラインを策定。食品・飲料への課税や、価格により消費者行動を変えることを主な目的とした食品補助金に関するものも含む。

ヨーロッパの、わずか 4 つの産業が毎年 270 万人の死者を出している

「WHO ヨーロッパ地域における非感染性疾患の商業的決定要因」は先駆的な報告書で、特定の強力な産業が危険因子の予防・管理努力に干渉し影響し不健康と早期死亡を促進していることを明確にし、これらの産業部門が公益規制を妨害することができるようになったことに警鐘。

WHO、糖尿病治療や減量に使用される偽造医薬品に警告

一部の国で 2 型糖尿病や肥満症の治療に使用されている医薬品の一種であるセ

マグルチドの偽造品に関する医療製品アラートを発表。

トランス脂肪酸の世界的排除に関する WHO の報告書 2023

工業的に生産される TFA は栄養学的な利点はない。今回の報告は、TFA の世界的な廃絶に向けた過去 5 年間の進捗状況をまとめた。

公衆衛生上の課題に対する「保健システムレジリエンス」構築ガイダンス

ガイダンスは UHC、健康の安全保障、ひいてはすべての人のウェルビーイングを推進するために、保健システムのレジリエンスという概念を運用できるように導くことを目的とし、ハイレベルの提言を実践に移すための方策も示している。

アルコールと薬物の使用による年間死亡者数は 300 万人超

報告書によると、飲酒が原因で年間 260 万人が、また、60 万人が向精神薬の使用により死亡し、男性が大半。

運動不足により病気のリスクがある成人は約 18 億人

WHO の研究者らの研究結果が『ランセット・グローバル・ヘルス』誌に掲載。世界の成人の 31% が推奨される身体活動レベルを満たしていないことが明らかに。

6月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。 <https://japan-who.or.jp/factsheets/>

・身体活動、・アルコール、・傷害と暴力、・高齢者の虐待、・狂犬病、・暑さと健康、・心的外傷後ストレス障害 (PTSD)